

# クラス担任のための Career Guidance

2015 >> VOL.29

キャリアガイダンス 特別編集



教師も生徒も挑戦！

大阪府立金岡高校の1年生は、年間通じて総合的な学習の時間で「笑い」作りを挑戦しています。生徒だけでなく、教員にとっても、正解のない課題に取り組み新しい試みです。

取材文／清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

## 「笑い」作りを自己成長につなぐ

### 「難しい」と戸惑う生徒も

### 頭の中はフル回転

9月下旬、2学期が始まって2回目の総合的な学習の時間。金岡高校1年生全クラスが「笑い」探究(笑育、わらいく)というプログラムに取り組み始めた。笑育とは、松竹芸能が独自に開発したプログラムで、「お笑い」(漫才やコント)を通じて、実践的に思考力や表現力などを高めていくという取り組み。この日のテーマは「ツッコミ千本ノック」。ボケとツッコミの「ツッコミ」を行う授業だ。

生徒たちは、黒板に次々と映し出される10枚の写真から連想する形容詞を書き出し、チームで最も「おもしろい」と思ったものを10個選ぶ。それと事前に準備された10枚の名詞カードをランダムに組み合わせ、その言葉に瞬時に突っ込みを入れていく。例えば、形容詞が「悲惨な」で名詞が「美少女」に対して、「どちゃねん」と突っ込む。そんな要領だ。ランダムに組み合わせた形容詞と名詞の、ありえない取り合わせに笑いが起きたり、会心のツッコミに爆笑が起るグループも。一方で、形容詞がなかなか出ない、突っ込み言葉が瞬時に出てこないなど、戸惑う生徒も少なくない。「難しい」。そんな言葉も聞かえてくるが、明らかに、頭の中では何かを考えようと必死になっている様子が伝わってくる。

### 正解のない授業展開で、教師はファシリテーション力を伸ばす

この授業の発案者は、昨年4月に民間から赴任した和栗隆史校長。生徒たちは大人しく穏やかだが、自分から一歩前に入る力が弱い。人前で発表するなど考えたこともなく、自分への自信も低い。そんな印象を何とかしたいと思い、目をつけたのが「お笑い」。もともと放送作家でもあり、多くの番組制作にたずさわっていた和栗校長にとって、ネタを考え人前で演じる漫才には、論理的思考力や創造力、コミュニケーション力など、いわゆる21世紀型スキルが詰まっていると感じたという。

「ちょうど、松竹芸能さんが小・中学校を中心に「笑育」という出張授業をされていたので、年間を通じた授業開発ができればと声をかけ、まったく新しい授業を一緒に作ってほしいです。特に注目したいのが、あくまでも学校で、各担任の先生が実際に授業を行っているという点。」



「この授業を通じて、アクティブラーニング型授業のファシリテーターとして」

「探究(笑育)」の授業は、クラスづくりにしていきうえでも、今までにない成果を出しつつあるという。

1学期に行った自分史から漫才を作り発表するという授業では、まず、教師自身が自分史を語った。そこで、赤裸々に失敗も語り笑いをとっていくと、クラスの雰囲気が大きく変わったのだという。

「生徒との関係がオープンになったと感じました。そうすることで、普段の授業ではなかなか見えてこなかった、生徒の意外な一面や個性が見えてきます。」(新井靖史先生)

「お笑い芸人の養成ではなく、あくまでも思考力や表現力を身につけていくための手段です。正解はないわけですから、自由のびのび考えたい。なので、無理に笑かさなくても良いと伝え、笑いに抵抗のある生徒も安心するようにです。」(藤原麻美先生)

「お互いを肯定的にとらえる良い機会になっていると思います。それによって生徒は自分からかわっていき、ことに勇気をもてるようになります。実際、夏休みに語学研修に行った生徒は、今までの自分では考えられなほど自分からかわっていき、楽しんで話していました。」(竹本茜先生)

### 「笑育」を通じて生徒につけたい力

#### <創造力・論理的思考力>

●お笑い(漫才・コントなど)のネタをつくり、発表し、交流する活動を通して、日常生活を円滑に過ごしたり、これからの社会を生き抜くために必要な課題解決力やリーダーシップなどの能力。

#### <情報編集力>

●お笑い台本の制作という活動を通して、要点を文章にまとめ、それを相手意識という観点で編集し、テンポのよい文章に仕上げる力。

#### <コミュニケーション能力・表現力>

●考えたことや思ったことなどをいろいろな方法で表現しようとする力。  
●わかったことを相手にわかりやすく伝える方法を選んで表現することができる力。

#### <協働問題解決力>

●伝えたい内容をよりテンポのよい漫才台本に仕上げるためにはどうすればよいのか、友達との話し合いにより、多様な視点で考え、深めるなど、完成まで常に問い続けていく力。



ツッコミ千本ノックの授業中の生徒たち。「反射的に答えなくてはならないから焦る」「ほかの人の前でとっさに言葉を口に出すのは、恥ずかしい」という声もある一方で、「短時間にいろいろ考えるから、頭が鍛えられた」という元気な感想も。

### 1学期・2学期の主な指導内容

#### <1学期>

- 1回め …… 「笑い」の構造を知る
- 2回め …… 台本を使ったミニ漫才体験
- 3回め …… 自分史を作る
- 4回め …… 他己新聞を作る
- 5回め …… 自分史漫才を作る
- 6回め …… 自分史漫才を発表し、クラス代表を決める
- 7回め …… 学年発表会

#### <2学期>

- 1回め …… 2学期ガイダンス&誓める講座
- 2回め …… ツッコミ千本ノック
- 3回め …… 「ずらす」ことを知る1
- 4回め …… 「ずらす」ことを知る2
- 5回め …… 「～すぎる」を知る1
- 6回め …… 「～すぎる」を知る2
- 7回め …… ミニ漫才作り クラス代表決定
- 8回め …… クラスマッチ
- 番外編 …… 「笑育フェスティバル2015秋」

1学期の自分史作りで自分をネタにしなが笑い作りのやり方を体感。2学期は、実際に芸人さんたちが、笑いを作るうえで意識していること、重視していることなどを抽出し分析することでキーワードとして浮上した、「ツッコミ」(瞬発力や発想力)、「ずらす」(視点を変える、視野を広げる)、「～すぎる」(強調する、焦点化する)という具体的な手法を軸に作成した笑育メソッドを活用した。

**松竹芸能 「笑育」とは**  
松竹芸能が「笑い」を通して、「コミュニケーション力や思考力などを高めながら身につけることができる」前授業などの取り組み。2012年から活動を始め、2014年には大阪府教育委員会と共催で大阪府下の小中学校で実施。2015年から、大阪府立金岡高校とともに、初の高校での年間を通じた授業展開に取り組んでいる。

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための

## Career Guidance

キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.409 2015年10月発行

■特集  
未来を創る、進路を拓く  
「自己肯定感」って何？

- いま、学校で何が起きているか？  
～現場教師による座談会～
- 自己肯定感をどのようにとらえればいいのか  
伊藤美奈子(奈良女子大学 教授)

誌上実践講座 「生徒とのかかわり方をどう変えるか」  
明日から取り組めるヒント 鈴木建生(産業能率大学 教授)

■連載  
●アクティブラーニング型授業への挑戦  
花輪高校(秋田・県立)
- 地域課題解決型キャリア教育  
市立札幌大通高校(北海道・市立)

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)  
バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます  
[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/](http://souken.shingakunet.com/career_g/) キュリアガイダンス 検索